

【第2回会議録】安中市役所庁舎・防災拠点センター建設基本計画策定市民会議

開催日時	令和4(2022)年3月24日(木)午後6時30分から午後9時30分
開催場所	安中市役所本庁舎3階 第305会議室(安中市安中一丁目23番13号)
出席委員 (敬称略)	北野敦則(会長)、金井昌信(副会長)、川端洋介、萩原豊彦、筑井秀夫、吉田茂、神戸友子、中島勝美、上原徹、佐藤雅人、金井弘恵、中山 伸子、上原将太、黛若葉、宮川直子、嶋田有美子(計16人)
欠席委員 (敬称略)	久保智美、瀬下由美子(計2人)
事務局等	[安中市資産活用課庁舎建設室] 町田企画経営部長、有阪室長、金田主任、野川主事 [株式会社石本建築事務所] 管理技術者ほか計4名
傍聴者	3名
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議 事 - 市役所庁舎の機能・役割に何を求めるか</p> <p>(1) 基本計画の全体像 【資料No: 1】</p> <p>(2) 他自治体庁舎の整備事例紹介 【資料No: 2】</p> <p>(3) 庁舎の機能・役割に関する意見交換 【資料No: 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災機能・防災学習機能 ・市民活動・多世代交流機能 ・ほか、あったほうが良い機能や施設、役割 <p>4 その他</p> <p>(1) 次回以降の会議日程</p> <p style="padding-left: 2em;">第3回会議</p> <p style="padding-left: 4em;">日時：令和4年4月15日(金)午後6時30分から</p> <p style="padding-left: 4em;">会場：安中市役所本庁舎2階 201会議室</p> <p style="padding-left: 2em;">第4回会議</p> <p style="padding-left: 4em;">日時：令和4年5月20日(金)午後6時30分から</p> <p style="padding-left: 4em;">会場：安中市役所本庁舎2階 201会議室</p> <p style="padding-left: 4em;">※近隣自治体庁舎視察の日程は調整中、後日連絡</p> <p>(2) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換シートの提出〆切 3月31日(水)まで <p>5 閉 会</p>

<会議要旨>

1 開会 午後6時30分から開会した。

2 会長挨拶 北野会長より挨拶

3 議事

(1) 基本計画の全体像

[事務局より基本計画の目次案をもとに全体像を説明]

(2) 他自治体庁舎の整備事例紹介

[石本建築事務所より他事例を紹介]

[委員意見・質疑応答]

Q1 委員：旧庁舎、中庁舎は解体すると思うが今ある新庁舎は残すのか。移転後の現在地や松井田庁舎との使い方によっても建設場所の使い方が変わってくると思うが、市に考えはあるか。現庁舎の敷地をボランティアセンターや展示場所や避難場所とすることも考えられるのではないか。

執務環境は職員の働きやすさ等の意見はどのように情報共有をするのか。

A 会長：現在地を避難場所とするなど、現在地の利活用方法についてはこの会議で提案してもよいと思う。

A 事務局：今ある新庁舎は耐震性もあるので残す。旧庁舎・中庁舎は解体する方向。今ある新庁舎にどのような機能を入れるか、現敷地の用途は今後の議論によって具体的にしていけるが、西毛広域幹線道路沿いなので、にぎわいのある施設とすることも考えられる。執務環境調査の中で、若手、中堅を集めたワーキンググループを設けて意見を集めている。まとめたものを庁内検討委員会で共有することとしている。

また現在地の利活用方法を含めて議論、提案いただいたものを市でまとめていく。

Q2 委員：新庁舎、松井田庁舎、谷津庁舎、現庁舎を一体で考えないといけないのでは。

執務環境調査の内容やスケジュールはどういったものになるのか。

A 事務局：執務環境調査の成果品は4月末に出る予定だが、次回会議で報告できる。松井田庁舎、谷津庁舎も調査している。いかに庁舎をコンパクトにできるかが目的。

Q3 委員：建築面積、延べ床面積はどのくらいなのか、庁舎の役割を考える上で、サイズがわかっている方が必要な機能の意見交換がしやすいのではないか。

概算工事費について現状の金額はわかるか。

A 事務局：仕様書では延べ床面積 8,500 m²に防災機能と市民活動交流機能の面積を加算することとしている。延べ床面積は執務環境調査や市民会議、職員から意見のあった必要な機

能等によって決まっていく。工事費の概算は、延べ床面積が決まった段階で算出するため、現時点では未定である。

A 会長：安中市にはどのような機能が必要か、他の庁舎の事例を見て、この会議で議論していき、回数を重ねるごとに具体的にす。その中で概算の金額を見ながら取捨選択していくのだと思う。

Q4 副会長：上田市庁舎では憩いの場は使われているのか。

A 石本：市によって貸出スペースの稼働率は異なる。繁忙期では足りないくらい使用されているが一般期間ではあまり使われていない、差があるのが一般的。市民協働スペース等の必要な面積等は難しい課題だが、議論しながら決めていく。

Q5 委員：公共施設の回遊性・滞留性に関する事例等はあるのか。

A 石本：都心の中の庁舎は周辺施設との連動性が取れるため回遊性はある。車の移動がメインの地方では、建物間が遠いので回遊性が持てない印象。小諸市役所はエリアの中で移動してもらい回遊性や連動性を持っている。

Q5 委員：小諸市役所では図書館や病院に立ち寄った人が市役所に立ち寄ったり、交通動線のなかに市役所があるので多く利用されているのか。

A 石本：市役所に訪れる人は限定的なので、情報発信をしても効果が少ない。図書館やカフェがあると訪れる機会も多くなり、偶発的な出会いの可能性も生み出せる。

Q6 委員：市民のフリースペースは人口規模に関係しているのか。係数などはあるか。

A 石本：設計している経験値では人口を基にした係数を用いることはない。事例等で紹介しているものは、1件1件必要なものを市民会議、ワークショップなどで確認しながら検討、計画している。周辺の建物の状況も関係している。

Q7 委員：今回の事例紹介のなかで、ヘリポートを庁舎に設置しているものはあるか。

A 石本：実際は少ない。ヘリポートを計画する場合は様々な条件がある。超高層の案件には多い。横浜市、川崎市、仙台市は検討中。ヘリポートが必要かは、今後議論が必要。

A 会長：今後の議論の中でヘリポートの要否も考えていければ良いが、初回議論によれば、必要ないと思う。

(3) 庁舎の機能・役割に関する意見交換

[事務局：配布シートの使い方の説明]

—休憩（10分）—

・防災機能、防災学習機能について

[委員意見・質疑応答]

Q1 委員：県内では市庁舎の上にヘリポートを作っているところは少なく、稼働しているものはない。高崎防災アリーナには防災ヘリポートを設置している。将来のことを考える

と庁舎にはヘリポートは不要。ひさよし緑地グラウンド、五料運動場、西毛総合運動公園陸上競技場、細野スポーツ広場、横川サービスエリアがある。防災ヘリポートは、近くのひさよし緑地グラウンドを新庁舎に合わせて整備するのがよい。耐震性貯水槽は、高崎市含め設置している市町村が多い。防災燃料に関しては備蓄が必要。

Q2 委員：3階建ての庁舎の高さにヘリポートが着陸することは不可能だと思う。風圧により瓦屋根が飛んだり、現実的には意味のないものは議論から外した方がよいのでは。

A 会長：ヘリポートは設計には組み入れないものとしてもらえばよい。事例紹介で例示のあった防災機能は新しい庁舎に基本的に入れるものとしてよいか。そのほか必要な機能など意見はあるか。

Q3 委員：新しい庁舎を避難場所にしなくても、マンホールトイレ、かまどベンチ、貯水槽等の機能は必要なのか。避難場所にするかしないかを決めた方がよい。

A 会長：災害時にいろんな業務で来る関係者向けに設置することは考えられる。積極的には避難場所とはしないで、他の避難所に誘導することとしたい。

Q4 委員：ほかの庁舎で避難場所としているものはあるのか。

A 石本：携わった事例では避難場所としているものはない。他の場所に職員が誘導することの課題もあるので、いつとき避難場所としているスペースを見込んでいる庁舎は多くあると認識している。

Q5 委員：以前、県知事が災害時に明るい県庁舎に行けば何かある安心できると思うような、シンボリックなものになるとよいと聞いた。2年前では板鼻地区の老人センターは満杯で道も混んでいて通れなく、家に帰った経験がある。一時的なよりどころとして、市役所庁舎の役割として必要だと感じる。

A 会長：避難者を受け入れるか、受け入れないのかも意見をいただければと思う。避難場所として庁舎の中に大きいスペースは不要と感じる。

Q6 委員：避難所は避難したときのことを考え、日常的に使い慣れているところがよい。かまどベンチやマンホールトイレは、各所にあると思うが、現庁舎、新庁舎両方にあっても良いと思う。実際に避難する場所に防災学習ができる機能を持たせられると、災害時に生きるのではないか。

Q7 副会長：安中市でありうる地震、風水害について、それぞれ具体的な状況を想定しながら、必要な機能を考え意見した方がよい。

地震の場合は一斉に逃げる。一回受け入れたら避難生活がスタートするので受け入れない。避難所に市役所を指定しない。庁舎には避難民等を受け入れるスペースはいらない。

水害の場合の避難は徒歩が原則。水害が起きた場合は、浸水しない場所に早めに車で移動して一泊して、何もなければ家に帰る、これが水害のいつとき避難である。車で避難する者には、広い立体駐車場に Wi-Fi があると便利だが、それは市役所じゃなくてよい。かまどベンチを使っているのは見たことがない。

- Q8 委員：台風19号時には、市民は避難所に連れて行けば、なんとかしてもらえらると思っていて、対応が難しかった。市役所に豪華な設備ができれば、一回避難すればまた避難しに来てしまう。
- Q9 委員：設備等も含めて市役所に避難場所の機能を求めるのは無理がある。必要最小限の機能とするか、機能を入れないかの議論が必要と思う。
今ある新庁舎を防災に特化したものとして使い、旧庁舎・中庁舎を撤去して、テントなどを建てるスペースとするのがよいと思う。
- Q10 委員：避難場所や想定する災害は地区ごとで異なる。新庁舎は防災の司令塔としての機能を考えた方がよい。庁舎ができると同時に防災教育について安中市全体で考えていくことが必要。
- Q11 会長：市役所庁舎は避難所として指定しない。防災拠点センターという名称になった経緯は。
- A 事務局：現状の本庁舎には非常用電源などの防災時に必要な機能、機能維持のための施設がないので、整備しなくてはいけない。更に新庁舎に来る方に日常的に防災について学んでいける場を設けていきたい。現在の本庁舎も指定避難場所とはしていないが、台風19号の時も、一晩だけ避難場所とした。ただ、避難所、いつとき避難場所としてアナウンスすることはない。その中で、多少の避難者を受け入れるスペースを設けるかは協議が必要。災害にあった市民を、庁舎機能を失わずに効率的に守っていくのが防災拠点センターの役割だと考えている。
- Q12 会長：市役所庁舎は指定避難所、いつとき避難所とはせず、また地区ごとに防災教育をしていき、日ごろから庁舎には避難しないことを周知していくことをこの会議の意見としていきたい。マンホールトイレは、防災学習のためにあってもよいのでは。
- Q13 委員：救助隊用のトイレの整備は必要。
- A 事務局：安中市ではスマイルパークにマンホールトイレは3基、整備されている。
- Q14 副会長：マンホールトイレは長期避難時に必要。使い方を学ぶために整備するのであれば、安中にないなら整備する必要があるのかは疑問。
- Q15 委員：防災ガイドブックを読む高齢者は避難場所がどこか知っているが、引っ越してきた人や若い人は防災ガイドブックなど読まないで、知っている人は少ない気がする。今回の庁舎では情報発信スペースとしてSNS等で地域の防災について情報発信することができるように。
- Q16 会長：マンホールトイレなどは利用する想定がないなら入れない。予算もないなら必要性のない機能は外していく。
- Q17 委員：基本計画の素案など、市の原案が示されると議論しやすいのではないかと。
- A 事務局：基本計画の段階では庁舎に必要な機能がどういうものかを市民会議で意見交換しながら意見をまとめていただく予定としている。具体的な平面図等がこの会議の時点では出てくるのではなく、その上で庁舎の機能を具体的にしていく。

- A 会長：基本構想や技術提案が現時点でのタタキ台であり、それを基に市民が使うスペースについて、必要なもの、必要ないものなどを様々なバックグラウンドから、この市民会議では議論していただきたい。職員が使うスペースは職員から意見もくみ上げているので、その部分とは切り分けて、市民が使うスペースが必要かどうかを考えていきたい。
- Q18 副会長：安中市に新しい庁舎ができるのに暗い話になっているので、市民活動・交流機能は新しい庁舎ではこんなことをしてみたい、こんなものがあつたらよい、という話ができるとうい。それを市がまとめるのでよいのでは。
- A 会長：提出いただいた意見交換シートをまとめて、次回の会議で発表する。そして、次回は市民活動・交流機能を中心に意見交換していく。

4 その他

(1) 次回以降の会議日程

(2) その他

- ・意見交換シートの提出〆切 3月31日（水）まで

- ・今回の会議で退任される川端委員、筑井委員、佐藤委員よりごあいさつをいただいた。

5 閉 会 午後9時30分に閉会した。